

B-DASHプロジェクト（ICTを活用した浸水対策施設運用支援システム）のガイドライン策定



下水道研究部 下水道研究室 室長 横田 敏宏 主任研究官 松浦 達郎

（キーワード） B-DASH、ICT、都市浸水対策

1. はじめに

国土交通省では2011年度より下水道革新的技術実証事業（B-DASHプロジェクト）を実施しており、国総研下水道研究部がその実施機関となっている。

今回、2014年度に採択された都市浸水対策に関する革新的技術、「ICTを活用した浸水対策施設運用支援システム実用化に関する技術」（以下、本技術）に関して、実証研究の成果に基づき、地方公共団体および有識者の意見も踏まえ、2016年12月に技術導入ガイドラインを策定した。

2. 実証技術の概要

本技術は、雨量や水位等の情報の計測・伝達・分析・提供に関する個別技術をICTにより統合したシステムを構築し、ポンプ施設等の既存浸水対策施設の効果的運用によって、浸水被害の軽減を可能とする技術である（図-1参照）。広島市江波地区で実証を行った結果、実証フィールドでは本技術の導入によって、浸水面積が約14%削減できることを確認した¹⁾。

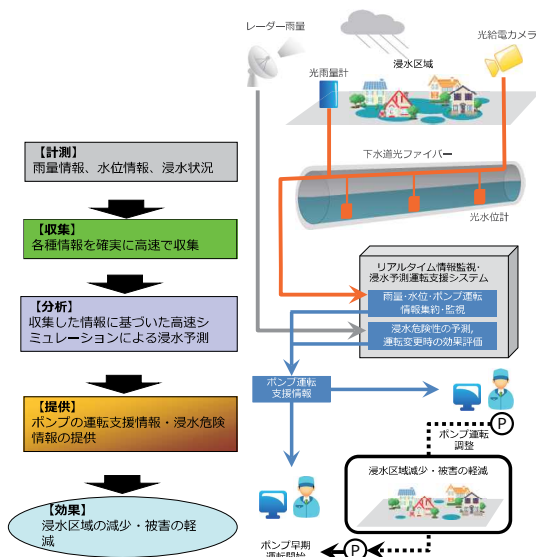


図-1 本技術の概要

3. ガイドラインの構成

図-2に、今回策定したガイドラインの構成を示す。まず2章により、本技術の特徴や性能等を把握し、第3章により実証研究成果に基づいた、本技術の効果や評価結果を確認する。次に、第4章において、対象とする地区での導入効果を試算し、導入効果が高いと判断された場合は、具体的な導入計画やシステムの構築について検討を行う。なお、本技術導入後の運用方法や維持管理については第5章に記載している。

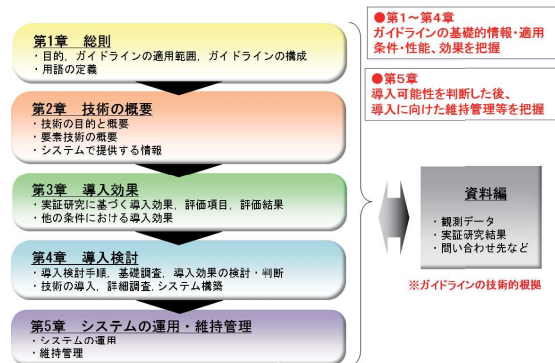


図-2 ガイドラインの構成

4. 成果の活用及び今後の展開

本ガイドラインを、下水道施設を実際に管理する地方公共団体や下水道関係企業等に紹介するため、2016年7月にポートメッセなごやにてガイドライン説明会を開催し、約120名の方々に参加頂いた。今後もこのような説明会等によりガイドラインを積極的に紹介し、都市における浸水被害軽減につながるよう技術の普及に努めていく予定である。

【参考】

1) 国総研資料 No. 940 ICTを活用した浸水対策施設運用支援システム導入ガイドライン（案）、2016年12月